



6月末を迎えて

6月は、修学旅行、自然教室と大きな学校行事がありました。また、先週は1学期の期末テストを実施しました。どの学年の生徒たちも、真剣なまなざしで答案に取り組んでいました。期末テストのような定期テストは、それまでの期間の授業で学習した内容について、どれくらい理解・習得できているかを確認する重要なテストです。生徒たちは、テスト期間だけでなく、普段からコツコツ努力していたことでしょう。



さて、既にご存じのこととは思いますが、今年度から『学習評価』の方法が大きく変わります。新学習指導要領が施行され、これまで4観点（国語は5観点）であったものが、すべて3観点となります。これに伴い、通知表の形式も、右記のように変わります。

3観点の内容については、以下の通りで、3段階（ABC）で評価します。

旧 通知表	新 通知表	
知識・理解 技能	知識・技能	
思考・判断		思考・判断・表現
関心・意欲・態度		主体的に学習に取り組む態度

■「知識・技能」について

【何を知っているか】（「文章中の原因と結果の関係が分かる」、「平行線や角の性質を理解している」など）、【何ができるか】（「電流や磁界に関する実験ができる」、「他者と合わせて歌うことができる」など）について評価しています。

●「思考・判断・表現」について

学習の中で、課題などを解決するために、知識や技能を活用して考えたり、最適な方法等を選んだり、自分の考えを友達に伝えたりする力を評価しています。

◆「主体的に学習に取り組む態度」について

単元（題材）及び授業の中で、各教科の力を身につけるための学ぶ姿などを評価しています。

学期末に、それぞれの教科において3観点で総括し、さらに評定として5段階で算出します。

「特別の教科 道徳」、「総合的な学習の時間」、「特別活動」については、生徒の活動内容、学習状況や授業の中で見られた成長の様子などについて、文章記述でお伝えします。

次に、3観点評価の場面やポイントについてです。「わかった」(知識)、「できた」(技能)だけでなく、将来、社会に出ても通用する力をバランスよく身に付けることが重要となります。

■「知識・技能」のポイント

今後は、授業の中で学んだ「知識」や「技能」が違った学習場面や日常生活などで使いこなせるかということが求められます。そのため中間・期末テストでも、授業で学んだことが生きて働く力になっているかという視点で出題されることが多くなることが予想されます。

また、ペーパーテストだけでなく、実際に実験や観察をしたり、スピーチをしたりするなど活動を通して評価するなど、各教科に合わせた多様な評価場面が設定されることとなります。

●「思考・判断・表現」のポイント

「思考・判断・表現」は、「知識・技能」と比べて、より広い力を評価することとなります。

評価する場面としては、ペーパーテストで評価することもあります。論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現など、様々な活動から評価します。

◆「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

学習を通して、「最後まで粘り強く学んでいるか」、「自分の考えや方法をより良いものにしていこうとしているか」といったように、各教科の学習内容を身に付けるために学ぶことが大切となります。

評価する場面としては、授業中での行動、発言の内容、ノート・レポート・振り返りの記述内容といったものから、単元を通じた主体的な姿を総合的に評価することとなります。

「主体的に学習に取り組む態度」については、学び方が重要となります。つまり、先生から教わるばかりでなく、周りの人たちと対話したりしながら共に考えたり、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育んだり、見通しをもって粘り強く取り組んだりすること、等です。

お知らせ

① 2年生は6月18日(金)、3年生は6月25日(金)に、「英検I B A」を実施しました。これは、日本英語検定協会(英検協会)が開発した、「読む」「聞く」の2技能の判定テストです。実施の目的は、「グローバル化に対応できる英語力の測定、学習の成果の確認や目標設定、英検受験級の決定など、生徒の英語学習をサポートしながら、英語学習の動機付けを図る」です。

テストの結果が、通知表の成績に加味されることはありません。ご承知ください。

② ホームページでもお知らせしましたは、今年度の内部川清掃(7月4日)は中止となりました。したがって、本校PTA担当の方に参加していただくこともなくなりました。